

発表者紹介

1. ダニエル・ポーリー <ブリティッシュ・コロンビア大学(UBC; カナダ)教授>



専門は魚資源管理、生態系モデルなど。初期の研究においては、魚資源の問題の実態を知るべく、アフリカ、インドネシアなどに調査に赴き、フィリピン国際水産資源管理センターでも勤務。世界最大の魚類データベースである Fish Base の開発・発展に貢献したほか、魚資源の持続的発展や生態学的観点からの魚資源政策の研究も行い、500 以上の論文やレポートを執筆してきた。2003 年には世界最古の科学雑誌 Scientific American 誌により、年間ベスト 50 に環境分野の研究リーダーとして選出されたほか、数多くの受賞歴があり、TED などでも世界に向けて積極的に情報発信を行っている。

2. ホルヘ・サルミエント <プリンストン大学(米)教授>



専門は気候変動。コロンビア大学で博士号を取得後、米国海洋大気庁(NOAA)やプリンストン大学で研究。二酸化炭素など、気候変動・異常気象の予測の鍵となる物質の大気と海の間での循環や、気候変動が海洋および地球システムにどのような影響を及ぼすか、幅広く研究を続けてきた。気候変動の第一人者。数多くの国際共同プログラムに参加し、二酸化炭素レベルの変動の監視や気候変動予測に携わり、Nature 誌などの権威ある学術誌への論文掲載も多数。世界最大の学会で Science 誌の発行元である米国科学振興協会(AAAS)が特にイノベーション、教育、科学におけるリーダーシップを発揮した会員に贈るフェローの称号を 2004 年に授与されている。

3. ウィリアム・チュン <UBC 准教授; ネレウスプログラム共同統括>



専門は気候変動が海洋生態系や魚資源に与える影響。2007 年に博士号を取得した若手研究者だが、既に 100 本以上の論文を発表し、Nature 誌や Science 誌への掲載もある。2013 年に Nature 誌で発表した気候変動の魚資源への影響についての論文が話題を呼んだ。2007 年にアル・ゴア元・米副大統領とともにノーベル平和賞を受賞した国際的な気候変動専門家会議である IPCC において、現在、海洋部門の主筆者となっている。ネレウスプログラムを太田義孝博士とともに共同統括している。

4. 太田義孝 <ネレウスプログラム共同統括>



専門は、海洋人類学、海洋政策など。UBC 上席研究員。ロンドン大学博士課程修了後、オーストラリア、インドネシア、イギリス、フランス、ペルー（アマゾン流域）など世界各国における魚資源の管理と漁業文化についての学際的研究に当たっている。2011 年よりネレウスプログラムの共同統括者としてカナダ在住。